



市議会  
だより

# きたあきた



スクールガードのボランティアさんに見守られ、元気に登校

17

平成21年2月1日発行

## 12月定例会

- 定例会の審議 ..... 2～3
- 常任委員会の審査報告 ..... 4～5
- 一般質問 ..... 6～10
- 委員会調査レポート ..... 11
- 審議結果・請願陳情・人事案件 ... 12

# 市民病院の建設費

# 91億円台へ増額

## 賛成多数で可決

12月定例議会は9日から19日まで開かれ、市長提案35議案のうち30件を全会一致で可決、市民病院建設に関する2件と機構改革3件の計5件を賛成多数で可決しました。また、9月議会で提案され12月議会までに継続審査していた平成19年度決算22件については、19件を全会一致で認定、市民病院建設に関する2件と上杉・金沢団地の宅地売れ残りが問題となっていた宅地造成特別会計の計3件は賛成多数で認定しました。

今議会に提案されたのは、補正予算案12件、条例の設置や一部改正案12件、指定管理者の指定案10件、人事案1件の計35件。

このうち質疑が集中したのは、今回もまた市民病院の建設について。市長からは「当

初予定した約88億円より高くなり、91億円台になる」と説明があり、次のような質疑が交わされました。

**議員** なぜ高くなったのか。

今後さらに高くなることもあるのか。

**市長** オリンピックなどの影響で建築資材が高くなったから。申し訳ないが認めて頂きたい。これ以上増えることはないと思っています。

大綱質疑や委員会審査を経て、最終日には反対の立場から「医師が計画通り確保できなければ医業収益も減少し、90億円を超える借金の返済に支障をきたす。病院会計だけでなく市の財政にとってこんな大事なことを不透明なまま進めるのは認められない」などと討論がありました。

が、市民病院に関する予算が計上されている病院事業会計補正予算案、一般会計補正予算案の

2件とも賛成多数で可決しました。

他に賛否が分かれたのは、合川・森吉・阿仁の各支所を総合窓口センターに改める案など機構改革に関する3件。

反対の立場から「支所がなくなれば各地域の歴史、文化が壊れる。むしろ支所機能を強化すべき」などと討論がありました。いずれも賛成多数で可決しました。

### 一般会計は

### 219億円に

一般会計補正予算案は、約5億8500万円を追加して合計で約219億円とするもの。主な歳出は、▽退職手当負担金24438万円▽阿仁病院赤字補てん分2000万円▽米内沢病院不良債務解消分3億1437万円▽前田基幹集落センター解体費等6906万円▽森吉中、阿仁中、米

内沢小、阿仁合小の耐力耐震調査4300万円など。

大綱質疑では次のようなやりとりが交わされました。

**議員** 今年度は若年で退職する人が多いと聞いているが、退職負担金はその分か。

**企画部長** 定年退職、若年退職のすべてをみている。その調整加算金として計上した。

**議員** 阿仁病院の赤字が増えたのはなぜか。

**阿仁病院事務長** 入院ベッド休床と人口減によるものとみている。

**議員** 米内沢病院の負担金はこれで終わるか。

**市長** おさまりそう。

**議員** 市民プールの指定管理料を140万円減額しているが、年度途中で変更するのはおかしくないか。

**教育委員会次長** プールは7月から指定管理となり、当初1カ月多くみていたので減額とした。

**議員** 耐震工事返還金として108万円計上されているがこれは何か。

**教育委員会次長** 鷹巣中央小の工事に不備があり会計検査院から指摘されたための処置。今後このようなことがないようにしたい。



病院事業会計補正予算採決の様子

## 協 長下処分場 全 改修工事へ

11月26日議会全員協議会を開き、▽長下ゴミ処分場の改修工事▽財団法人森吉観光公社への債務補償、などについて話し合いました。

長下ゴミ処分場の改修工事は、先ごろ遮水シートに穴が開いているのが見つかった

## 決算特別委員会審査報告

平成19年度決算特別委員会は8名で構成し、9月から11月までの間に10回委員会を開催し審査しました。

付託されたのは、一般会計・特別会計・事業会計の計22件で、予算は適正に執行されたか、行政効果はどうであったか、などをポイントに審査。その結果、一般会計と宅地造成特別会計、病院事業会計の3件を賛成多数で、ほかの19件を全会一致でいずれも認定しました。

審査で出された主な意見のうち、一般会計では、▽農林業は一層充実した施策を▽市税や各種使用料など

め修繕するもの。市は「調整池の改修などもあり総額3億円を超える工事費が必要」と説明し、議員からは「点検はしっかり行っていたのか」など市の姿勢をただす厳しい意見が続出しましたが、12月議会に計上された今年度分の工事費8613万円は可決しました。

森吉観光公社については、金融機関から運転資金を借り

の未収金確保強化を▽借地解消を▽学校給食への地場産品の活用増▽補助金の見直し▽職員の意識改革——を求めることを付帯意見とし、特別会計では、▽鷹巣地区の下水道事業促進▽合川地区の宅地分譲の販売促進、事業会計では、▽阿仁病院の医師確保ができなかったこと、市民病院の事業計画変更について住民への周知徹底を——との意見を付しました。

当委員会での意見が予算やその執行に反映されることを願いました。

(決算特別委員長

松尾秀一)

るにあたって市が保証人となることが条件とされたため、その是非について議論。議員からは「財団法人という性質を市は理解していない」「公社が経営改善して返済する」というこの計画書は信びよう性がない」「経営改善のため職員をクビにするという計画はダメ」などの意見が相次ぎましたが、12月議会では保証人となることに同意しました。金額は2000万円。

※全員協議会ではこれまで任意の会議でしたが、会議規則を改正し、議会の正規の会議となりました。

## 臨時議会 阿仁スキー場に 3500万円補助

11月5日臨時議会が開かれ阿仁スキー場を運営する会社は今シーズンも営業してもらうため3500万円を補助する補正予算案を全会一致で可決しました。補助額のうち半分は県が負担します。主な質疑は次のとおり。

**議員** 来年度以降の営業はどうなるのか。

**市長** まだ決まっていない。

存続を前提に今後、会社と交渉する。

## 傍聴お待ちしています

今議会には鷹巣小6年生23人が社会科の授業の一貫として傍聴に訪れました(写真)。その感想を寄せていただきましたので紹介します。

○議会では、「食べ物の安全」や「自給率」などが話題に出ていました。市民の安全について話し合っていたので、これからも市民のためにがんばってほしいなと思いました。(長崎夏帆さん)

○たくさんの方がいて、市長さんが一つ一つの質問にしっかり答えていました。北秋田市がもっとよくなるために、改善しなければならぬことをしっかり話し合って、もっとよい町にしたいです。(湊屋有沙さん)

沙さん)

○初めて議会を傍聴して、国会が小さくなったように感じました。言葉は少し難しかったけど、北秋田市に必要なものや市の活性化について話し合い、住民のことを考えてくれているんだあとわかりました。(久米孝さん)

※次回3月定例会は本会議、各常任委員会とも本庁舎で行われます。市民のみなさんの傍聴をお待ちしています。



総務企画

条例3案賛成多数で可決

当委員会に付託された議案は、条例案8件、単行議案1件、予算案2件、陳情1件でした。北秋田市公告式条例及び北秋田市支所等設置条例の一部を改正する条例の制定については、支所の置き方に疑問である。また、北秋田市の機構改革に伴う関係条例の整備に関する条例の制定については、条例の運用等に対する

セクションが明確でない。北秋田市総合窓口センター設置条例の制定については、支所を形式化するものという反対

討論があり採決の結果、賛成多数で原案可決としました。

新屋敷会館の指定管理者の指定については、自治会館は他の集落で指定管理を申請することは考えにくいという判断があり、新屋敷会館の指定

前田出張所はクウインスへ移動

一般会計補正予算については、H20年度に設けられましたが地方再生枠という地方財政対策もあり、前年度より交付税が3億円多くなっています。しかし、長下の処分場などで財調を3億1400万円取り

管理条例が制定されないまま申請を受け付けていることに對して、正規な手続きに従って進めていただきたいと付帯意見を付して原案可決としました。

崩したことにより、現在の財調は約2億円となりました。一方歳出については、前田出張所がクウインスに移ることによりクウインスの間仕切りが477万3000円、出張所の解体等に956万2000円の予算を計上。退職手当負担金として2438万4000円は定年35名、若年11名、その他2名分であり、採択の結果全会一致で原案可決としました。



3月2日から出張所業務が開始される クウインス森吉

に順次、解決していく必要があることから、本市借用地への対応改善を求める意見書の提出があり、全会一致で可決としました。

(佐藤文信委員長)

生活環境

市民病院めぐり賛否討論

当委員会に付託された案件は、条例案2件、予算案5件、陳情2件、継審陳情1件でした。

審査が集中したのは市民病院について。委員から「外構工事が減額されているのはなぜか」「建設費が91億円台になるという説明だが、それ以上かかることはないのか」「赤字が発生し市の負担を求

めてきた時はどうするのか」

などの質疑が出され、担当課からは「外構工事は本体工事の進捗状況にあわせて精査した結果、来年度にまたがることになった。支払いは来年度

になるので今回の予算からは削除した」「建設費の総額は91億円台で収まる」「赤字となっても市では補てんしない。あくまで指定管理の制度でや

阿仁病院は診療所に

阿仁病院については、「来年度から無床診療所にする」

「以上」の質疑のほか、「医師が予定通り確保できなければ医療収入が減る、など心配なことや不透明なことがたくさんある」との反対討論、「議会はすでに指定管理者を承認しており、この予算を通すことは当然」との賛成討論がありました。

と当局は説明。これに対し委員から「今後は医師確保に努力させないということか」「地域住民3189人の署名をないがしろにするものだ」「地域住民への説明会を開いてほしい」との意見が出ました。当局は「医師確保が困難なので入院をあきらめざるを得ない。説明会は開きます」としました。

以上の審査を経て、阿仁病院と市民病院の予算を計上している病院事業会計補正予算は賛成多数で可決しました。

(佐藤重光委員長)



無床診療所への移行が示された阿仁病院

## 福祉教育

### 全議案全会一致で可決

当委員会に付託された案件は、条例案1件、単行議案1件、予算案2件、陳情1件でした。

初めに公民館条例の一部を改正する条例の制定については、前田公民館廃止に伴う改正でありました。

阿仁川の河川改修に伴い廃止とし解体するためのもの。当局からは四季美術館、森吉

コミセンを利用して不便がない様に対応するとの事でした。全会一致で原案可決とする。

次に障害者生活支援センターの指定管理者の指定については、質疑がありましたが、応募が一体である事から全会一致で原案を可決とする。

補正予算20年度北秋田市一般会計補正予算（6号）の内、3款民生費、10款教育費の本

委員会に付託された所管分と20年度北秋田市介護保険特別会計補正予算（3号）の2件であります。

民生費の主なものは施設の修繕工事費、ケアタウンボイラーの取り替え他等でありました。

教育費の主なものは、学校施設管理費等の需用費の追加補正の内容は燃料費、単価高騰による増額でした。

また、学校耐力度調査及び耐震診断業務委託と合せ、竜森小学校の廃止に伴い鷹巣南小学校へ倉庫の新築工事を用

する点からの補正でした。

減額の主なものとしては、学校管理費としてOAシステムの契約の請差と、市民プールの指定管理の開始が15日間遅れた事による140万円の減額でした。

特別会計補正予算3号については、介護度一次判定項目変更に伴い介護認定システムの変更が主なものでした。以上2件につきましても全会一致で原案可決しました。

### 陳情は採択で

介護保険制度の抜本的改善を求める意見書採択を要請する陳情書は、採択とし、意見書を提出することとしました。（中嶋力蔵委員長）



河川改修に伴い解体する前田公民館（前田基幹集落センター）

## 産業建設

### （財）森吉観光公社経営を徹底集中審査

当委員会に付託された案件は、条例案1件、単行議案8件、予算案7件、継審陳情3件でした。単行議案8件は総て指定管理者の指定についての提案であり、その中で南鷹巣交流センターと、幸屋交流センターの2件については、条例改正と指定管理の指定が、同時に提案された点について、本来であれば条例が制定され

その条例に基づいて指定管理に移行するべき、自治会館という性格上理解するが、今後は条例に基づいてやるべきという意見を付して全会一致で原案可決と決しました。次に予算案7件の中で特に集中審査したのは、財団法人森吉観光公社借入金損失補償にかかわる債務負担行為の補正でした。出捐金他3点の資料の提

出を求め、前理事長であった副市長からこれまでの経緯と現状についての説明を受けました。今回の損失補償は、過去の苦しい運営状況に加え、昨年の豪雨被害、森吉山ダムからの請負減に、石油の高騰、地震の風評被害等の要因が重なり資金不足が生じ、経営が成り立たなくなる。出捐金を取り崩して運営費に充当した件については、旧町時代に借りた5000万円と3年前の1000万円とダブルで償還に至った実情や、公社独自では貸す所が無く、出捐金を取

り崩さざるを得なかったことなどでした。委員会としては、財団法人そのものの認識が軽率に捉えられており経営改善計画もあまい、今後このようなことがないように厳格に経営陣が経営にあたるべしという意見を付して、他6件と共に全会一致で原案可決と決しました。

### 阿仁スキー場の

### 陳情は継続

阿仁スキー場ゴンドラ運行継続、阿仁スキー場営業継続、阿仁スキー場閉鎖中止に關す



地震の風評被害で打撃を受けた「国民宿舎森吉山荘」

る陳情3件については、委員会として、推移を見る必要があることから継続審査とすることに決しました。（武藤忠孝委員長）

# 一般質問

活かそう市民の声 市政を問う



一般質問は、12月11日・12日の2日間行われ、9名の議員が市長に対して、農業振興策、市民病院、地域医療、定額給付金、指定管理者制度、機構改革、非常勤職員の待遇、長下処分場の事故等様々な問題についてたどしました。

\*掲載文は、質問者の執筆による原稿を掲載しております。

回答 質問

## 農業振興策は

## 安全・安心な食生産を図る



武石隆憲 議員  
(形成会)

つて来年度から提供するように進めたい。生産者もいつでも供給できるシステム作りが必要。

**問** 農業体験学習の受け入れ体制整備で食育・食農教育を。

**答** 阿仁湯口内地区で首都圏からの修学旅行生を対象

## 雇用環境の創出は

## 関係機関と連携し情報提供する

**問** 若者の雇用対策は地域活性化に不可欠。市の対応は。

**答** 雇用不安は当地域にとつても深刻。ハローワークなど関係機関と連携して雇用拡大を図っている。新卒雇用対策は市条例の基準を満たす規模で工場の新設、増設をした企業に対し操業から3年以内に常時雇用した場合、1人20万円、年間1000万円を上限に奨励金を交付している。制度の

**問** 売れ残りが問題となっている、上杉駅前団地は。

**答** 宅地造成特別会計は平成19年度決算で資金不足が58・2%と突出しており県からも指導を受けている。宅地造成特別会計は土地開発基金を利用するなどして平成20年度をもって廃止したい。分譲価格を値下げし、区画を分割して、PRを強化しながら販売促進していく。

に行われている。食育の一環として農業体験学習も学校教育に組み込んで進めていきたい。

**問** 地域の生産物を活用した産業振興施策は。

**答** 市内業者が生産する物産を特産品に推奨認定する制度を平成18年度から実施。これまで食料品61点。工芸品など14点を認定。知名度アップと販路拡大を図っている。今後は農商工連携の視点から地場産品を利用した産業振興に努める。

| 質問          | 回答           |
|-------------|--------------|
| 前田基幹センターの今後 | 廃止するが住民の意見聞く |



黒澤 芳彦 議員  
(新 創 会)

**問** 前田基幹集落センター廃止により取り壊すとのことであるが、その後の計画について。差額で四季美館に施設を増設するなど地元に還元を。

は四季美館を拠点にしたい。ただよう地元や講座関係者にも説明している。調理実習は森吉コミセンの調理室を利用していただきたい。災害にともなう補償は1億1700万円ほどで解体や償還などで6600万円かかるため5000万円ほど残る。四季美館への施設の増設は借地であることから難しい。補償差額を地元のために活用することについては、地元の見解も聞きながら十分考えるようにする。

## 医師の確保大丈夫か

### 全力であたっている

**問** 世界は未曾有の金融恐慌の真ただ中にある。しかし、本当に恐ろしいのは、恐慌でなく恐怖である。私は思っている。恐怖という不安がますます広がって恐慌に拍車をかけているのではないか。

来年度の北秋田市民病院の開院にあたり、医師確保は大丈夫かという不安の声が聞かれるが、どのくらい確保できているのか。

**答** 確実なのは、常勤換算すると22から23名（現中央病院在中）。

| 質問         | 回答      |
|------------|---------|
| 医師確保と赤字対策は | 厚生連の責任で |



長崎 克彦 議員  
(千 光 会)

**問** 厚生連では医師確保は困難、赤字が発生するので、行政支援を求めているが、どう対応するのか。

**答** 責任は感じているが、医師問題は院長にある。多くの退職者が出ており、現状のままで進める。

**問** 入院部門では給食等のスタッフが必要。医師確保含めて経営が無理なので、外来のみの診療所にする。

**問** 合併すれば良くなる財政は悪化し、起債残高が499億円になる、どう償還するのか。

**答** 500億円近くになると予想している。有利な起債を利用し、償還していく。

**問** 農業生産資材の高騰に対する支援策は。

**答** 農協と協議し、国、県、農協の支援状況等を考慮し、支援すべき内容を検討する。

**問** 10月21日に管理の準備に関する協定を締結している。今後、基本協定、単年度協定を順次締結していく。基本協定には納付額など明記され、締結次第、議会にも提示する。

**問** 地場産業の振興にもっと力を注ぐべきではないか。

**答** 企業活動支援のためのインフラ整備を進めている。バイオマスについては量産プラントに結び付くよう取り組んでいきたい。

**問** ガン治療機器の導入計画はどうなっているのか。

**答** 医師が決まっていらないので、決まりしだい機種を選定する。

**問** 米内沢病院の経営赤字について、管理者である市長の責任と思うがどう考えているのか。また、職員の

**問** 米内沢病院の経営赤字について、管理者である市長の責任と思うがどう考えているのか。また、職員の

**問** 米内沢病院の経営赤字について、管理者である市長の責任と思うがどう考えているのか。また、職員の

## 地元の「こまち」を給食へ

### 小・中校へ提供する

**問** 良食味と精米機能を備えたカントリーから、小・中校へ安全安心の「あきたこまち」を提供すべきと考えるがどう取り組むか。

**答** 地産地消ということで地元米を平成21年度から給食に利用できるようにする。

**問** 集落営農組織の法人化の見通しは。

**答** 北秋田未来塾などの活動を通じて強化していく。

**問** 南小に編入する、童森小の徳育教育（学校林への

**答** 童森小の特色である自転車競技、育林活動、郷土芸能については、統合してからも継続して引き継いで行けるよう、十分協議していく。

質問

回答

## 中核となる農業の育成は

## 担い手を支援したい



吉田嘉隆 議員  
(形成会)

**問** 基幹産業である農業が元気になるれば市の活力に。

今年度の方針に中核となる産業の育成を積極的に推進とあるが、何をどう進めてきたのか。また、地域水田農業ビジョンで実現できたものは何か。

**答** 農業が基幹産業としており、それなりの支援や協議にも参加している。農業が安定的、効率的にできることが大事。農政懇談会で協議し、進めているが、鷹巣、阿仁部の2つの協議会でギャップがあり、北秋田市一農協という形で進められたらと思うている。地域水田農業ビジョンは最終目標年度を24年度として進めており、その中の担い手

で出てくるのが心配される。市の将来を十分見据えて英断すべきと思うが、その考えは。

への集積計画は目標の60%は達成しているが、24年度には70%になるよう今後担い手を支援し、進めたい。

**答** 市の公共施設の損失補償は、この事業を進めるため借金をしたいので、市が保証人になってくれないかということ。指定管理者制度でも、お手上げとなつたときは、市の施設であり、市の責任ということになるが、今の場合はそういうことではないので了解いただきたい。

## 出馬表明の時期では

## お正月休みに考えたい

**問** 市長の進退について、この4年間でやり遂げたこと、まだのものもあると思う。

現職としてはつきり出馬の意思表明する時期と思うし、それが責任でもあると思うが、市長の考えは。

**答** 私の公約は永続のある福祉、地域医療、農林業の推進、教育・学力の向上、企業誘致の5つであったが、できていないのが幾つもあり、そういうことに対する責任というのは十分感じている。特に、病院問題は、

私の責任で解決していかねければならないと思う。市長という立場でできるのか、やめたほうがやりやすくなるかはわからないが、それは感じている。お正月の休みでゆっくりと考え、体調等チェックしながら答えを出したい。市長は市民が選ぶ。私がやるという気持ちになるか、あるいは皆さんたちの段階で、引込んだほうがいいのではというのもある。その辺は今議会で見極めたい。

質問

回答

## 定額給付金への考えは

## ありがたい制度だ



原田醇一 議員  
(公明正大)

**問** 1人1万2000円、65歳以上と18歳未満について1人につき2万円となる定額給付金の対応と運用についての準備は。

**答** 良い制度というよりもありがたい制度だ。個人の

**問** 中小・零細企業に向けた100%保証や利子補給制度に向けた本市の支援策は。

**答** 年末・年始の資金需要に対応できるように認定を急いでやるように、迅速にできるようにしている。

**問** 認定を迅速にしている

口の4分の1で3200万人が感染し、死亡率2%と見て64万人が死亡すると言われていた。

大事なことは、常日頃からの準備と危機への警戒心、イザという時、市民への正しい情報伝達が必要と考える。

**答** 危機管理対策室に本拠を置き、発生時の啓発広報体制を敷く。それに、発熱外来の設置場所を決め、相談窓口も設置する。大事なことは、今のインフルエンザにかからないこと、市で1500円負担しているインフルエンザワクチンをぜひ受けてもらいたい。

もう一つ、インフルエンザに感染して致命傷となるのは肺炎。県内で当市しかやっていない肺炎ワクチンもぜひ受けていたきたい。特に、お年の方、免疫の弱い方、そういう方は感染しないようにお願いしたい。



| 回 答                                | 質 問 |
|------------------------------------|-----|
| <h2>協定書報告の条例対応は<br/>議会には報告したい</h2> |     |



佐藤 文信 議員  
(新 創 会)

**問** 地方自治を推進して行く上で指定管理者制度は今や欠くことのできない手法の一つでありますが、市民に対して透明性の確保を図るうえでも市当局、議会でも説明責任が求められています。協定書締結後には議会に報告を行うという内容を、指定管理者制度条例に追加する必要があると思いますが、当局の見解は。

**答** 指定管理者制度が始まって3年になりますが、訴訟や事故が起きた時の対応については、想定をしていないまま進んで来ましたが検討をします。



緊急時に対応できるシステムが必要となる  
指定管理者制度導入施設

## モニタリングへの対応は 書類として管理します

**問** 自然災害時、緊急時に対応できる休業保険加入について協定書に盛り込む必要があると思いますが対応は。また、モニタリングについては公の施設が果たすべき使命等が効果的に達成されているのかを判断する指標となります。現在のモニタリングへの対応状況について当局の見解は。

**答** 基本協定で火災保険は市が、施設賠償責任保険は指定管理者が加入すること

| 回 答                                  | 質 問 |
|--------------------------------------|-----|
| <h2>市長の説明責任が問われる<br/>想定外の事態が生じた</h2> |     |



花田 隆一 議員  
(共産党議員団)

**問** 市民病院の建設費が大幅にふくらむようだが最終的にどれ位になるのか。当初から予算内で必ずおさめると言ってきたのではない

**答** 当初予定から2億8000万円ほど増えたが、最終的には91億円以内に抑えたい。原油や建設資材の高騰という想定外の事態が生じた結果であり理解願いたい。

**問** 特色は「ガン治療」との考えは変わらないか。

**答** ファスを考えているが2次医療としてガン治療できる体制をめざしたい。

**問** 赤字になっても、厚生

## 値上げ分は公費負担を 自助努力も限界

**問** 来年度4月より給食費の値上げが予定されているが少子化対策、子育て支援対策の一環としてとらえる必要がある。小中学校値上げ667万円を公費負担とすべきではないか。

**答** 学校給食の食材価格が前年比で5・89%伸びている。安全安心の給食を提供していくには、自助努力に限界があり、人件費燃料費なども大きく、公費負担への転化もできない状況。

**問** 学力テスト結果を県教委が市町村名をふせながら結果を公表した。市教委の立場は「公表しない」としてきた。県に抗議すべきではないか。

**答** 公表については全県市町村の教育長とともに反対の意思を明確に表明している。情報公開を求める意見書にも反対する旨回答している。

## 非常勤職員への対応は

### 職員取扱要綱がある



議員 米澤 一 (千光会)

**問** 報酬が大幅に増額されている。賃金から報酬に変えた理由は。対象者の就業条件はどうなるか。

**答** 臨時職員を非常勤職員としたため。原則として1日6時間を超えない範囲での雇用と規定している。

**問** 報酬が大幅に増額されている。賃金から報酬に変えた理由は。対象者の就業条件はどうなるか。

**答** 報酬受給対象者はどれくらいか。労働条件として、保険の対象となっているか。退職した場合の対応はどうなるか。作業上、通勤上、事故のあった場合はどうか。また、出産等の市の対応は。

## 定額給付金制度について

### 価値ある制度と思う

**問** 定額給付金について国からの説明はどうか。この給付金については国民の60%以上の反対という世論調査もある。

**答** この給付金制度が実現すれば、北秋田市で受給される総額はどれくらいか。高額所得者への対応はどうするか。



地域経済への波及効果はどう考えるか。税金の申告はどうなるか。

**答** 秋田県は12月3日に説明会を開いた。

北秋田市には、1万2000円の方は1万9724名、2億3668万8千円、65歳以上の方は1万3442名で、2億6884万円、18歳以下は、5357名で1億714万円合わせて、6億1266万8千円と試算している。

高額所得者への対応は、高額所得者に対してでも平等に支払うべきと思う。

直接現金で渡すので、期待していると思う。

課税については、与党間で意見の一定ができていない。

## 長下処分場の事故は

### 管理体制を整備する



議員 三浦 克昭 (新創会)

**問** 長下処分場のシーートの破損は、絶対あつてはならない事故と認識しているか。処分場の汚水が下水処理施設に繋がるのはいつか。これまで下流集落との協定は守られてきたか。

**答** このような事故は絶対あつてはならないことであり深く反省している。水質土壌の調査を行うとともに施設の管理体制を整備し再発防止につとめる。

汚水の下水処理施設との接続は、関係法に照らし合わせて接続を検討中だが、浄化槽の有機質を好む微生物に処分場の無機質の水が入り込むことで、処理不能になることも考えられるので県の指導を受けながら対応したい。

下流域との協定はおろそかになっていた部分もあり反省するとともに、今後このようなことがおこらないよう対応したい。流域住民の不安を解消するためにも新たに水質、土壌の調査を実施し、慎重に取り組んで行きたい。

## 北秋田米のブランド化は

### 両農協と協議する

**問** 市に二つの農協があることから、統一した栽培指導宣伝活動など市がイニシアチブをとるべきである。

**答** 市全域の統一した栽培は、それぞれ両農協の栽培マニュアルがあつて難しい状況にあり、両農協の理解と協力が必要である。地域のブランド米として安全システム米、清流米などあるが広域カントリーエレベーターも稼動しており、今後ともブランド米についての協議をして行きたい。

され収納率に変化があつたか。

**答** タイヤロックやインターネット公売の環境は整備済みであるが、該当する物件は無かった。滞納者の債務や預貯金の差し押さえは適宜実施している。11月現在で全税目で前年より収納率は向上している。

**問** 温室効果ガスの森林の役割を理解してくれる企業が「森作り」に参加できる環境作りをしてはどうか。

**答** 県の平成15年「水と緑の条例」を機会に県全体では動きだしている。市でも全国植樹祭の開催を契機に「企業の森作り」への取り組みについて、県と連携を強化して進めたい。

# 委員会調査レポート



## 生活環境常任委員会

10/28  
10/30

### トータルケアの町づくりを

福島県西会津町では「すべてにやさしい健康の町、西会津町」をキーワードとして、上・下水道や住宅商業、工業団地の整備、ケーブルテレビやインターネット網の整備、保健と医療と福祉の連携強化による「トータルケア」を推進し、町民誰もが安心して暮らせる町づくりを進めている。

(1)保健分野では食生活改善等による平均寿命の延伸（百歳への挑戦宣言）

(2)医療分野は国民健康保険の運営と減税措置（定率減税から定額減税へ）

(3)福祉分野では 施設等のサービス、在宅サービスの介護支援サービス各種セラピーの導入、在宅健康管理システムを導入することにより、地域における保健、医療、福祉の連携に基づく、在宅福祉の向上を図ることができるとのことである。

国保藤沢町民病院は岩手県の山間地、人口約1万人の町である。病院を囲んで町立の保健センターや老人保健施設、在宅



国保藤沢町民病院と通路で結ばれた老人保健施設

介護支援など軒を連ね、医療、保健、介護が一体になった「地域包括ケア」の拠点になっている。病院と通路で結ばれた老健施設を指さし、この距離だから向こうの入所者の急変にもすぐ対応できている。病院のベッド数は54床、老健施設などを合わせれば約200床。院長は「医療過疎の町で患者が本当に困った時に頼れる病院、ここにしかない医療づくりをした。住民とのひざを交えた対話を重ねた病院に」と語った。

(佐藤重光委員長)

## 産業建設常任委員会

10/28  
10/30

### バイオエタノールの製造システムを調査

イネを原料とするバイオエタノール製造の先進地である新潟市の「全農にいがた」を訪問し、原料栽培から販売までを調査しました。

製造方法は、日本酒の製造と同様で、糖化、発酵、蒸留、脱水の過程を経て、行います。原料は転作地に多収穫品種（北陸193号）を栽培し、農家所得の向上とコスト削減に努めていました。

関係団体で組織する地域協議会を立ち上げ、事業を進め、栽培面積は300haを目標に募集をかけ、産地づくり交付金を活用して価格を補てん。販売はレギュラーガソリンと同価格を想定しているとのこと。現状は赤字ながらすべて全農で補てんしており、5年計画により、課題を解決していくとのことでした。

もう一つは、木質バイオエタノール製造の実証プラントを当市で実施するつくば市の「森林総合研究所」で実験プラントを見学し、事業概略等に



スギを原料としたバイオエタノール製造技術の説明を受ける

ついて調査しました。この事業は、バイオマス・ニッポン総合戦略推進会議の基本方針に基づくもので、スギを原料にバイオエタノール製造技術の実証を行うものです。この製造システムでは糖化と発酵が同時に行われ、効率よく変換できることから、悪臭、排水についても問題がないとの説明を受けました。

今後、生産コスト低減に向け、収集、運搬システム開発も重要となると考えられます。

(武藤忠孝委員長)

## 秋田内陸縦貫鉄道存続特別委員会

### 秋田内陸線の存続決定

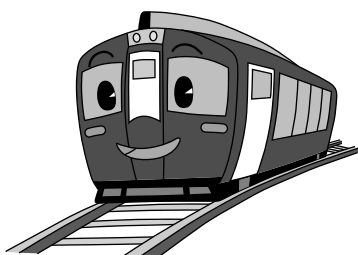
秋田内陸線については利用者の減少、経営不振から、寺田県知事が存続はきびしいと廃止の可能性を示唆したことから、にわかに秋田内陸線の廃線への懸念が高まり、存続論議が巻き起こりました。

北秋田市議会としても存続の危機感から平成19年6月定例会で「秋田内陸縦貫鉄道存続特別委員会」を設置し、8回にわたる委員会の開催のほか陳情の審査及び各種フォーラム、イベント等への参加などを通して、内陸線存続のアピールをしたほか、関係機関へ強力に要望活動することを確認しました。

その結果、平成20年6月18日に北秋田市議会として「秋田内陸縦貫鉄道存続に関する決議」を全会一致で採決し、これを受け、6月20日に秋田県知事並びに秋田県議会議長に直接要望書を提出した。この間において、沿線地域及び市職員の乗車運動や、県内外のサポーターによる支援運動など行われ、存続に向けた機運の高まりがありました。こういう一連の行動が功を奏して、寺田県知事が11月25日に存続を正式に決定したことにより決着がつけました。

本特別委員会は「秋田内陸縦貫鉄道存続に関する件」であり、所期の目的は達成されたことから、終了することを12月定例会において決議しました。今後とも乗車することが最大の存続運動であることとを確認しました。

(原田醇一委員長)



内陸線キャラクター「ないりっくん」

